

研究課題名	超高齢者における早期胃癌に対するESDの妥当性
研究の意義・目的	早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は、高い根治性を有する低侵襲治療（身体への負担が少ない治療）として、広く普及しています。本邦では超高齢者社会をむかえ、超高齢者（ここでは85歳以上と定義します）に対してもESD施行する機会が増えてきています。超高齢者では、重篤な病気を合併する症例が多く、ESDを契機に全身状態が悪化したり、他疾患の併存により長期の予後を見込めなかったりすることがあります。しかしながら、重篤な病気を合併する超高齢者におけるESDの妥当性については一定の見解が得られていません。そこで、重篤な病気を合併する超高齢者における早期胃癌に対するESD後の予後を調査することで、治療の妥当性を検証することができ、内視鏡治療の発展に貢献しうるものと考えます。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～2025年3月31日
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2005年3月～2020年4月に、大阪市立大学医学部附属病院の消化器内科で、早期胃癌に対してESDを施行した85歳以上の方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。 診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、BMI、内服歴、既往歴、基礎疾患、内視鏡所見、内視鏡手術所見、病理結果、偶発症、入院期間、予後】 当院に通院されていない方には、当院の研究担当者が電話で、生存・死亡の確認、生存日または死亡日、死因を聴取します。
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪市立大学医学部附属病院消化器内科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学医学部附属病院 消化器内科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 消化器内科学 研究責任者 大南雅揮
本研究の利益相反	利益相反の状況については大阪市立大学利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	研究責任者 大南 雅揮 住所 545-8585 大阪市阿倍野区旭町 1-4-3 電話 06-6645-3811 FAX 06-6645-3813 E-mail ominami@med.osaka-cu.ac.jp